

# 会派調査（研修）報告書

平成30年7月20日

胎内市議会議長  
森田 幸衛 様

(報告者) 会派名 公明党

代表者名 渡辺 栄 六

会派調査(研修)について、下記のとおり報告します。

調査・研修 日 時	自 平成30年 7月 4日 至 平成30年 7月 6日 2泊3日(3日間)	調査・研修 場 所	山形県最上町 岩手県紫波町 福島県白河市
調査・研修 事 項	最上町 自治協働のまちづくり 紫波町 オガールプロジェクト視察研修 白河市 白河市立図書館の施設整備及び運営状況		
調査・研修 出 席 者	渡辺栄六  (政和会) 渡辺 俊 森田幸衛 天木義人 小野徳重 森本将司 (胎政会) 佐藤武志		
相 手 方 (対応者)	最上町 渡邊英俊(産業厚生常任委員長) 高橋浩康(総務課政策調整 主幹) 伊藤和久(議会事務局長)  紫波町 八重嶋雄光(取締役)  白河市 筒井孝充(議会議長) 田中伸哉(図書館長) 星 嘉一(議会事務局係長)		

## 調査の結果または概要

- 【最上町】 山形県の東北部に位置し、宮城県と秋田県との県境にある人口約 8700 人を有する町。  
町民主体の自治活動の推進に向けた、自治・協働のまちづくりを展開するため、町長を本部長とした「自治協働のまちづくり総合推進本部」を平成 20 年に設置。平成 15 年度から取り組んでいる町職員地域担当制「地域づくり協働隊」との協議、集落实態調査や自治・協働のまちづくりを推進している。
- 【紫波町】 岩手県のほぼ中央、県都盛岡市と宮沢賢治で有名な花巻市の中間に位置し、東西に開けた人口 3 万 3800 人の自然豊かな町。  
都市整備を図るため、町民や民間企業の意見を伺い、議会の議決を経て紫波町公民連携基本計画を策定。この基本計画に基づき、平成 21 年度から紫波中央駅前都市整備事業「オガールプロジェクト」が開始された。
- 【白河市】 福島県の南部中央に位置し、平地と丘陵、山岳地帯で大部分が形成されている。栃木県那須町に接しており、人口は約 6 万 2000 人。  
白河図書館は、白河駅西側に隣接した中心市街地に平成 23 年に移転開館した。知識の拠点となる図書館、交流の拠点となる会議室、地域産業を支援する産業支援センターが設置されている複合施設である。

## 調査の所見・感想

- 【最上町】 あらゆる地域資源を利用した、農観商工連携による魅力あふれた地域産業を創出し、雇用拡大を図りながら人口減少に歯止めをかけている。耕畜連携で農家 100 軒がアスパラガスや、ニラなど 5 年間で 15 億円を生産拡大している。また、木質バイオマスを活用した住宅設備した定住促進事業では、転入者が 60 人増加している。山間地の雪深いまちで、自治協働のまちづくりに多くを学ぶことができた。
- 【紫波町】 少子高齢化による人口減少、国からの地方交付税や補助金の削減、厳しい財政状況の中で地域活性化に悩む自治体が少なくない。オガールプロジェクトは、駅前の町有地 10.7 ヘクタールを中心に、ホテルやバレーボール専用体育館、図書館、カフェ、産直マルシェなどが入居する施設を相次いでオープンした。補助金に頼らない公民連携で地域活性化を進め、年間 80 万人が訪れるようになっている。全国から注目を集める、コンパクトシティづくりの先進事例に大いに評価される。
- 【白河市】 白河市立図書館は、市民の多様な知的好奇心に応える地域に根ざした公共の場として、学習活動や文化活動を支援し、教育と文化の向上・新たな創造に繋がることを目指している。  
本市としても、生涯学習センターの施設が待ち望まれるところであるが、魅力的なまちづくりの拠点となる、図書館を含む交流施設も視野に入れた施設整備計画が必要であると考えさせられた。